

ろくろせやまこふんぐん 3. 六呂瀬山古墳群

所在地：坂井市丸岡町上久米田

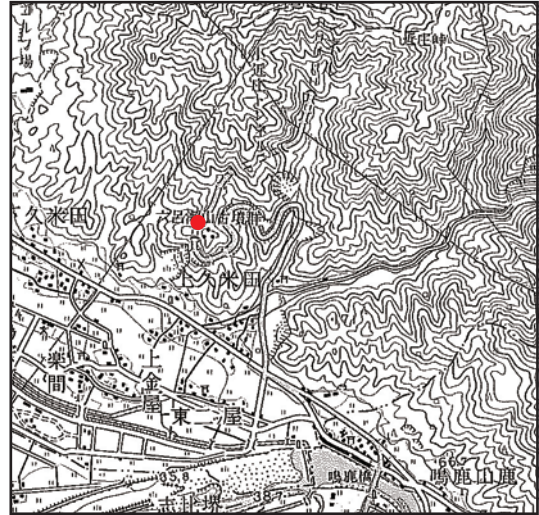
調査原因：史跡整備に向けた範囲確認

調査期間：令和2年11月4日～12月7日

調査主体：坂井市教育委員会

調査面積：約56 m²

時代：古墳



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 六呂瀬山古墳群は、北陸最大級とされる全長約140mの規模をもつ1号墳（前方後円墳）を含む4基で構成される前期古墳群です。古墳時代の越前地域を知るうえで、重要な遺跡と評価され、平成4年に国指定史跡となりました。

遺構 調査対象となった六呂瀬山1号墳は、標高約200mの山頂に立地しており、自然の尾根を利用して築造されています。今回の調査では、測量図面で良好にテラス部と確認できる西側と北側で、葺石や埴輪列の有無を確認しました。それぞれ、西側トレンチと北側トレンチと呼びます。

西側トレンチの上段テラス部では、約10～15cmの手のひらサイズの葺石を多く確認しました。角が取れ、丸みを帯びていることから、川原石と考えられます。しかし、下段斜面からは葺石は確認できませんでした。六呂瀬山1号墳の後円部斜面は、傾斜が急なため、様々な要因で葺石が転落したものと考えられます。また、墳丘裾部では、基底石と考えられる約40cmの川原石を確認しました。この基底石は、昭和60年代の調査で、確認された時と同じ状態で出土しました。

北側トレンチでは、約20～30cmの大きめな葺石が確認されました。北側トレンチで確認された葺石は、以前、六呂瀬山3号墳を調査した際に確認された、約20～30cmの葺石とほぼ同じ大きさということが分かりました。

遺物 西側トレンチでは、多くの埴輪片や高坏の脚部が出土しました。特に上段テラス付近では、家形埴輪や円形埴輪、ほぼ据えられた状態の円筒埴輪基部部等を確認しました。

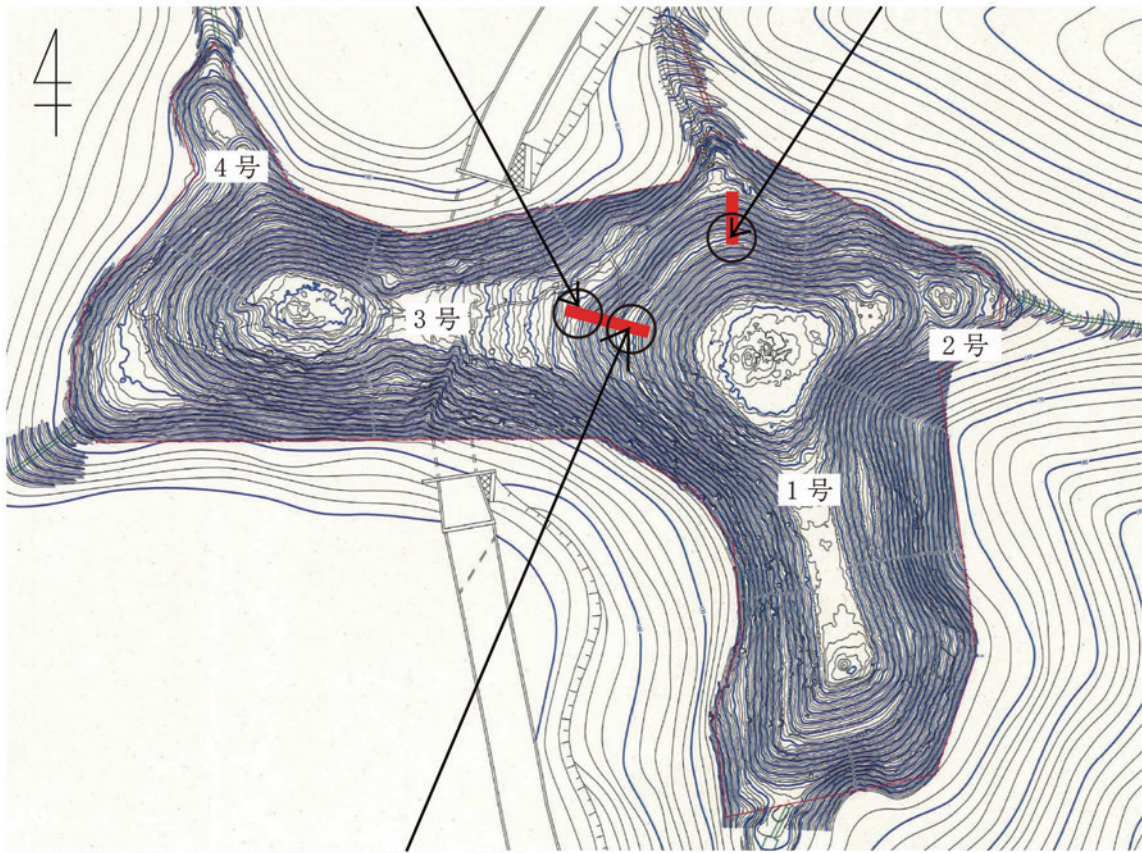
まとめ 今回の調査では、2つの調査区で葺石を確認することができました。葺石の多くは、転落しており、築造当時のまま残っているものはあまりありませんでした。しかし、六呂瀬山1号墳の後円部では、2種類の大きさの違う葺石が使われていたことが明らかになりました。また、西側トレンチでは、上段テラス部で円筒埴輪の基部部を確認しました。今後、検討が必要ですが、六呂瀬山1号墳の上段テラス部に、円筒埴輪が並べられていたと推察されます。さらに、上段テラスでは、円形埴輪等の形象埴輪片の出土も確認できました。円形埴輪は家形埴輪などと一緒に、儀礼祭祀をする場所に据えられることから、西側上段テラスで儀礼祭祀を行っていた可能性が考えられます。
(小林 美土里)



西側トレンチ 基底石出土状況



北側トレンチ 完掘状況 (上段テラス)



円筒埴輪



圀形埴輪

代表的な出土遺物 (西側上段テラスより出土)